

I. 心臓カテーテル造影検査・治療における重篤な合併症の割合

心臓カテーテル造影検査は、先天性心疾患をはじめとする小児循環器領域の疾患の診断・病態の把握・治療方針決定のために重要な検査法であり、本邦のほとんどの施設でおこなわれている。また、最近では検査と同時にカテーテル治療も施行されている。しかし侵襲的検査法や治療なので、ある頻度で合併症が生ずることが報告されている。この合併症は検査や治療の性質上、無にはできない。しかし最近の心エコー検査・CT・MRI・核医学などの非侵襲的検査法の進歩により、リスクのある心臓カテーテル造影検査なしで、先天性心疾患の根本的治療である手術することも可能となってきた。そこで心臓カテーテル造影検査の適応を厳密にする、また合併症が生じることを考慮したシステム構築により合併症の頻度を少なくできる可能性があり、安全な医療という面で有用な指標となりうる。

【当院の定義】

- 「重篤な合併症」 - ① 死亡
 - ② 緊急的処置を必要とし、生死にかかわる血行動態的悪化（心停止・重度の低血圧など）
 - ③ 外科的治療を必要としたもの
 - ④ 予測できない恒久的な後遺症（脳梗塞・動脈閉塞・血管破裂・瘤など）

※ 「J Am Coll Cardiol 1998 ; 32 : 1433」に記載された定義と同じものとした

【当院の計算方法】

- 分子：ア) 心臓カテーテル造影検査および治療の重篤な合併症件数
- 分母：イ) 心臓カテーテル造影検査および治療件数

【当院の数値】

	項目別	ア) 合併症件数		イ) 件数		重篤な合併症の割合	
		心臓カテーテル造影検査 (死亡)	カテーテル治療 (死亡)	心臓カテーテル造影検査	カテーテル治療	心臓カテーテル造影検査	カテーテル治療
2011年	項目別	0 (0)	0 (0)	75	31	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		106		0.0%	
2012年	項目別	0 (0)	3 (0)	60	42	0.0%	7.1%
	全件	3 (0)		102		2.9%	
2013年	項目別	0 (0)	0 (0)	78	25	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		103		0.0%	
2014年	項目別	0 (0)	3 (0)	86	28	0.0%	10.7%
	全件	3 (0)		114		2.6%	
2015年	項目別	0 (0)	0 (0)	92	50	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		142		0.0%	
2016年	項目別	0 (0)	0 (0)	94	38	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		132		0.0%	
2017年	項目別	0 (0)	0 (0)	90	34	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		124		0.0%	
2018年	項目別	0 (0)	0 (0)	99	46	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		145		0.0%	
2019年	項目別	0 (0)	0 (0)	76	51	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		127		0.0%	
2020年	項目別	0 (0)	1 (0)	83	47	0.0%	2.1%
	全件	1 (0)		130		0.8%	
2021年	項目別	0 (0)	0 (0)	71	74	0.0%	0.0%
	全件	0 (0)		145		0.0%	